

私のまちにも... ぶんぶくが



本尊観世音菩薩と胎内仏



正楽寺観音堂の弘法大師像 (木喰上人作)

中畑観音堂

防長風土注進案(天保十三年一八四二完成)

によると、土間四方横四間茅葺の本堂に、本尊観世音菩薩一三隅七観音第一番観音一で貴重な胎内仏を蔵しておられ有名である。木仏台座共に一尺三寸(43cm)作者は判らない、始め中村真言宗発光寺の抱えであったが、明治維新の際発光寺が廃仏棄釈で廃寺になったので、発光寺の委嘱により明峰寺抱えとなって現在に至っている。

い、堂内外の清掃、環境保全に努め一献かわし乍ら往時の盛大な祭礼を偲んでいる。

八月十七日の縁日祭礼には往時荷馬車の盛んだったため、馬の疫病退散長寿安穩を祈る為、町内全部の馬が次々と参詣し、急な石段の登り下りは盛観であり、中には乗馬の俣登段したという、信ぜられぬ程の物語りも残っている。華麗な馬の彫刻が安置され、これをなでさすり、その手で自分の馬をなでさすって、馬の好運を祈願したものである。

修業のための厳しい戒律である。この行を九十日間続けると木喰の称号を受けることができる。木喰上人は一生木喰行を続け自ら木喰と称された)は寛政十年(一七九七)十一月九日より二十四日迄十五日間発光寺に宿って、いくつかの仏像を刻んだ、その一体(弘法大師)を抱えであった、中畑観音堂に付與したものと推考される。

その弘法大師像は無住時代のいつか個人が護持していたものを、正楽寺の信者が譲渡された、昔正楽寺が廃寺となり観音堂が残っているが、その本尊は自然石で仏像の形をしていないので、仏像がなくしてはと正楽寺の信者が捧持してここにまつたものである。

中畑観音堂
二周半四方瓦葺の本堂に本尊観世音菩薩で木仏台坐ともに一尺三寸 始め真言宗発光寺の抱であったが、廃仏棄釈による発光寺消滅とともに、明峰寺の抱となり現在に至っている。観世音菩薩は三隅七観音の第一の観音で又胎内仏として貴重である。近年この胎内仏を中畑部落の全戸が交代で順をおいで一年間護持することになり、縁日の八月十七日に護持した方が観音堂に持参し全戸で供養し、次の護持者が自宅で奉安することにしている。華麗な馬の彫刻が安置され、馬の疫病退散長寿安穩を祈る行事が盛んであったが、今は中止されており、馬の由来判らない。

いるが、弘法大師像が近くに帰家穩座されたのは奇縁である。

文化財専門委員長 齊藤元宣

文芸

俳句

清風句会

七月例会 (順不同)

虹の輪に競い孔雀の翅ひろげ
因藤 兔史
水打って詫びる媼に笑みて去り
上田 雪子
苑室の会話小声に梅雨の冷え
斉藤 元
夏風にゆれつつ浮ぶ海女の楯
仁保 民子
近く見ゆ松が枝越しに虹映えて
山野たけ子
潮吹や海に飛び込む虹の橋
大深 八重
水打って客待つ宿や温泉街
滝口 旬一
鮎海女口を鳴らせて虹を吐く
笹見 梅雪
噴霧器も朝日を受けて虹の橋
岩本さつき
山梔子(くちなし)の乙女の如き
風情かな
山崎 風花
虹はるか父母も又遙かなり
岡 松月
水打って一人仏間で香を焚く
宮永ミネ子
子ら帰るせめても庭に水打ちて
山中 重女

選者 追吟
打水の雫光るや文学碑
あざやかに床の石にも虹立ちて
永田 石山